

講義名	オ)経営戦略論A		
担当教員	青木 良三		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			

主題と概要

・本講義の主題は、経営戦略論の概要を解説することにあります。理論のみならずケースもたくさん紹介しますので、理論と実際のビジネス界の出来事をバランス良く学習できる内容になっています。

・本講義は、経営戦略のうち事業（競争）戦略と機能別戦略について解説します。なお、全社（企業）戦略については、経営戦略論Bで行います。

・本講義のレベルは、入門書レベルに一部中級レベルの話が加わります。

到達目標

学生は、本講義を学習することによって、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聴いて経営戦略的な観点から企業行動を評価し、説明することができるようになります。

学生は、本講義を学習することによって得られた経営戦略論の知識を使って、初歩的なビジネス・プランを作成できるようになります。

学生は、企業経営の仕組み、とくに経営戦略を、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになります。

提出課題

・コピペが多いので、提出課題はありません。

・レポートは、任意とします。

・レポートを出す場合は、経営戦略論Aのテーマである企業の事業（競争）戦略が機能別戦略について書いてください。

・テーマについての文がある場合は、相談してください。

・オンデマンド授業となった場合は、毎回レポートの提出を求めます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

・レポート、小テストを予定していませんが、任意でレポートが提出された場合は、授業中にフィードバックします。それができない時は、電子メールでフィードバックします。

・オンデマンド授業となった場合は、定期的にレポートや質問について、フィードバックします。

評価の基準

・期末試験100点満点で評価します。

・授業中の発言は、発言1回につき1点とします。ただし、加算は最大30点までとします。双方向の授業を行いたいため、授業中の発言を歓迎します。

・任意で提出したレポートの内容が良かった場合、成績評価の際に加算することがあります。また、コピペしたレポートは、採点しません。

・オンデマンド授業になった場合、毎回の授業で提出されたレポートを評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・期末試験は、授業中に読んだことや板書した事項、授業で配布した資料から出題します。授業の欠席が多いと、試験で得点することはむずかしくなるので気を付けてください。

・私語等により他の受講生に迷惑をかける学生には退室を命じます。その指示に従わない場合は、退室します。

・オンデマンド授業になった場合、毎回レポートの提出を求めますが、その提出回数が少ないと単位取得がむずかしくなるので注意してください。

教科書	『マネジメント』	特定非営利活動法人経営能力開発センター	中央経済社	2640	4502124311

プリント資料及び参考文献

・RYUKA Portal から資料をダウンロードできるようにします。

授業計画

1. 経営戦略の体系
2. マイケル・ポーターのポジショニング理論と3つの基本競争戦略
3. 競争戦略 コストリーダーシップ戦略（規模の経済と経験効果）
4. ケーススタディ 日本マクドナルド
5. 競争戦略 差別化戦略（市場の細分化）
6. ケーススタディ モスフードサービス
7. 競争戦略 集中戦略
8. ケーススタディ アスクル
9. 競争上の地位と戦略パターン
10. プロダクトライフサイクルと戦略
11. 機能別戦略 生産戦略
12. ケーススタディ トヨタ自動車
13. 機能別戦略 マーケティング
14. マーケティング
15. ケーススタディ 資生堂

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・予習は、テキストをしっかりと読んでおいて下さい。経営学の用語を中心に意味を理解しておけば十分です。

・復習は、授業で配布された資料を読んで分からないところがないか確認して下さい。分からないところはテキストで調べ、それでも分からないときは私に尋ねて下さい。

・予習に3時間、復習に1時間を目安にしてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業を履修することにより、経営理論や事例を理解することで、情報収集力、情報分析力、課題発見力、課題解決に向けた構想力といった能力が身につきます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・レスポンスなどの使用を予定していません。使用する場合は、事前に講義連絡します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。1979年から1997年まで銀行に勤務。調査や融資、ファンド運用を担当した。授業で取り上げる企業の事例について、企業分析の実務経験を踏まえたコメントをすることができます。新聞記事の解説以上のコメントができます。

備考

本講義は2021年度前期開講のため、新型コロナウイルスの感染状況によりますが、オンデマンド型の授業になる可能性があります。